

西濃農林事務所の普及活動状況（令和7年8月）

今月の重点活動

■担い手リーダー 先進農家視察研修の開催

8月25日、西濃管内の担い手リーダー（指導農業士・青年農業士・女性農業経営アドバイザー）は、県内で農福連携に取り組む(株)DAIと担い手育成に取り組む(有)春見ライスでの研修を、西南濃農業普及事業推進協議会と共催した。当日は、担い手リーダー5名の他、市町、JAにしみの、農林事務所等、関係者18名が参加した。

(株)DAIでは、農業参入した福祉事業所としての取り組みや、農業者に求める点の説明を受けた。また、(有)春見ライスでは、地域に根差した担い手育成について、自分たちの仲間作りから始めた経過説明を受けた後、直売所の視察を行った。

農林事務所は、担い手育成の取り組みが推進されるよう、事務局として企画・支援を行った。



【研修風景】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稻採種ほ 岐阜ハツシモSLの採種ほ出穂期審査

8月26日、(農)大垣南の岐阜ハツシモSLの採種ほにおいて、出穂期の審査を行った。採種ほ場は肥培管理や病虫害・雑草防除がしっかりされており、生育も順調で、審査は全筆合格となった。

9月には、糊熟期審査とその後の生産物審査もあり、農林事務所は良質な種子生産に向けて支援を行っていく。



【審査後の講評】

■雑草イネ 雑草イネの現地検討会

大垣市上石津町の水田では、雑草イネが繁殖し、問題となっている。8月19日には地元県議を招き、農業者と農林関係職員とで現地検討会を開催した。農林事務所から雑草イネの駆除対策を説明後、実際に駆除に取り組んだ農業者から、雑草イネに実施した対策について説明を受けた。

対策を実施した水田では前年に比べ90%以上の駆除効果があることを確認した。農林事務所では、雑草イネの駆除対策を普及し、水稻の安定生産を支援していく。



【雑草イネの現地確認】

■水稻 「あきたこまち」の収穫始まる

8月14日、海津カントリーで「あきたこまち」初出荷式が開催された。今年は梅雨明けが早く高温障害が懸念されたが、等級は1等で良品質米の生産ができた。

農林事務所では、生育途中の巡回を通じて、病虫害防除や水管理、適期収穫の助言を行い、栽培支援を行ってきた。また、初収穫の取材を受けた経営体も今年の出来に期待を寄せていた。

今後、農林事務所では、中生・晩生品種の栽培支援を継続していく。



【初出荷式の様子】

■バラ I P M実証事業の取り組み支援

8月5日、神戸町の切バラ生産者のほ場において病害虫調査を行った。本ほ場では、グリーンな栽培体系加速化事業によるI P M防除技術の実証として、UVBランプによる病害防除を行う計画である。

今回、UVBランプ照射装置がほ場に整備されたことから、設置の状況や利用方法等について確認するとともに、うどんこ病等の発生状況について調査を行った。

うどんこ病はバラ栽培における難防除病害であるため、生産者はその効果に期待しており、農林事務所では引き続き有効な使用法等について検討していく。



【設置されたUVB ランプ】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■きゅうり 海津胡瓜部会土壌診断説明会の開催

8月5日、JA にしみの海津中支店で海津胡瓜部会土壌診断説明会が開催された。

農林事務所からは、7月22日に青年部の協力のもと実施された土壌診断の結果及び施肥設計について説明を行った。

全ほ場でリン酸過剰となっているため、リン酸の施用を控えるよう提案した。また、多くのほ場で塩基飽和度が適正域を超過していることから、塩基バランスを考慮しつつ、必要最小限の土壌改良資材の施用に留めることや、窒素肥料が多く残っているほ場については、徐々に減肥していくよう提案を行った。



【処方箋のイメージ】

■下宮青果部会協議会 GAP 反省会を開催

8月19日、下宮青果部会協議会が取組んでいる「下宮版GAP」の反省会が開催された。農林事務所からは、7月8日に実施した監査結果の報告を行った。

チェックリスト20項目が全て「できた」生産者は全体の65%(前年比-2%)で昨年と比べると取組みがやや停滞していた。また、農薬の在庫記録や土壌診断の実施など、取組みが進んでいない項目もあり、それぞれの項目の意義や必要性を助言した。

今後農林事務所では、20項目の「下宮版GAP」が確実に実施されるよう支援を継続していく。



【研修会の様子】

■なし (株)ファームコタニアの初収穫はじまる

海津市の(株)ファームコタニアでは、8月12日から「幸水」の収穫が始まった。他に甘ひびき、あきづき、甘太の計4品種を根圏制御栽培法で栽培しており、苗木植付けから3年目となる今年が初収穫となる。

「幸水」は、作付け面積の半数を占める基幹品種で、人気、知名度もあり、収穫期がお盆の時期になることから順調な販売が期待される。「幸水」の後は、「あきづき」「甘太」と収穫が続くため、農林事務所では、継続して栽培支援を行っていく。



【収穫の様子】